

「自己紹介」

太宰府市国際交流員 キムシンヒョン 金辛滋

皆さん、はじめまして。4月から太宰府市で国際交流員として勤めさせていただきますキム シンヒョン金 辛滋と申します。

私にとって意義深い所である太宰府で日韓の国際交流に関する業務を勤めることになりまして、とても光栄に思います。今回は私から皆さんへのご挨拶としてコラムで自己紹介する時間をいただければと思います。

元々日本の文化に興味を持っていた私は高校3年生の時、日本語の勉強を始めました。勉強を進める中で、日本への興味が段々深くなり、日本をもっと知りたいという考えで日本の大学への進学を決めました。そうやって来た日本で初めて生活を始めた所が太宰府でした。

韓国にいた頃の私はあんまり外に出ない性格でしたが、日本に来てから活動的な性格に変わったと思います。太宰府市で開催される七夕祭りや古都の光などに参加することや太宰府市内の小学校の生徒さんと文化的に交流することで、日本の生活に適応して行くことが出来ました。日本に初めて来て、まだ足りなかった日本語の実力、文化の違いなどで困るときもありましたが、その経験を通じて私自身も少しは成長できたのではないかと考えています。

気づけば日本生活も5年目になりました。まだいろいろ足りない部分は多いですが、これまでの経験を活かし国際交流員として頑張りたいと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。



あいさつは
心をつなぐ
だい一步

太宰府西小3年 おかざき あつと 岡崎 純大さん
(応募時)



はぎ お けい こ 萩尾 慶子 (筑紫野市) 小原流

花材 アジサイ、ランタンキュラス、
ガーベラ 他

季節の生け花

太宰府市華道連盟

つれづれ

太宰府短歌会

コロナ禍で人と交われぬ苛立ちを
短歌は流し支えとなりぬ

五条 大穂 聡子

五分五分にまよふときにはアラストと
決めぬてもまた迷つことあり

観世音寺 大久保 富士子

父よりもポルタリングを高々と
女の子七歳時移りゆく

五条 大藪 晶代

甘夏に半身入れつつ啄める
メジロが厚き皮をも穿つ

朱雀 黒木 邦枝

捨て置きしバラ一枝が再生と
あまたの蕾 つけて教える

通古賀 詫摩 典子

太宰府俳句会

持永 真理子 選

こころ無となりし苔寺さへづれる

丘 柴田 慧美子

囀の聞き分けもして野良仕事

東観世 中島 祝乃

聖日の晴れ高々と囀れり

国分 松尾 満子

わが庭の色もゆたかに夏近し

大野城市 北嘉与子

囀のこぼるる径を辿る朝

水城 福永 恵美

飛梅句会

介弘 紀子 選

湖の面に影を預けて春の月

朝倉市 鶴田 ゆき

行春や模糊となりたる志賀の鳥

長浦台 徳賀 美智子

行春やふる里を恋ひ母を恋ひ

うきは市 中川 寿朗

麦の穂のつんつん伸びて恙なし

馬場 野上 コト子

地球との美しき隔ての春の月

観世音寺 野田 杉子

宝満句会

菅井 久美子 選

初桜風纏ひつつ昏れ残る

青葉台 本山 晴子

若者のシャツの横文字春の風

青葉台 平野 香

春風は此処にも吹けり災禍跡

筑紫野市 羽野 喜久代

里山へ思ひ出桜尋ね行く

東ヶ丘 竹家 京子

築山の水面耀ふ初桜

星ヶ丘 江里口 幸生

都久志てんじん句会

佐々木 甘露子 選

子雀のなすがままなる六地藏

青葉台 彦坂 正学

バス停に一人の花見日和かな

筑紫野市 津和崎 幸枝

見送りの手のひら溢れ島の春

福岡市 宮津 英里子

否応もなく逃げられぬ春愁か

福岡市 北川 朴洋子

商人の街はフェールに黄砂降る

福岡市 塩飽 たか子

太宰府川柳倶楽部

小池 一恵 選

ネクタイの出番はいつも黒ばかり

湯の谷 山口 善暉

何がめでたい生きるヒントが多すぎる

観世音寺 河原 明子

飯のタネ付き合ひ酒のほろ苦さ

筑紫野市 東 昭秀

叱る母逃げ口ひらひら開けておく

吉松 鈴木 弘市

登頂に心のもやも解き放つ

福岡市 王丸 真知子